

森林やまがた

No.219

2025. 9



山形県森林協会は、「美しい森林づくり推進国民運動」を推進しています。



目 次

「第5次農林水産業元気創造戦略」の策定について	2
第5次農林水産業元気創造戦略の概要	2
「やまがた森林ノミクス」の加速化	3
山形県林工連携コンソーシアムの取組み	3
山形県森林管理推進協議会	
林業事業体経営体質強化研修会を開催	4
やまがた木育人材養成講座【スタートアップ】を開催	5
フォレスト通信 農林大学校・専門職大学 から 未来のフォレスターたち	6
国有林から 地域での森林環境教育活動	7
みどりのページ	
月山弓張平サマージャンボリー	8
緑の少年団活動促進事業を活用した 二井宿みどりの少年団の活動報告	9

林業担い手確保の取組み	
やまがた移住・交流フェア(東京交通会館)に参加	10
普及情報	
ワラビのカバークロップによる下刈り省力化 に関する研修	11
村山地域における令和7年度森林計画業務研修会	12
最上地域ICT技術活用研修会の開催	13
災害対応支援研修の開催	14
タケノコ活用研修会を開催しました	15
魚の森へようこそ よぐ来たの鶴岡市油戸	15
特集	
高性能林業機械	
ZOUZAIウォッチャー	16, 17
林野庁長官への施策提案活動について	18

「第5次農林水産業元気創造戦略」の策定について

◆位置付け

本戦略は、県が令和2年3月に策定した「第4次山形県総合発展計画※」に掲げた農林水産分野に関する政策展開の考え方や施策の方向を踏まえ、今後10年間程度を見据えつつ、直近の4年間で取り組む具体的なプロジェクトを掲げた実行計画として、令和7年3月に策定しました。

※令和2年度から概ね10年間の県づくりの方向性を示す計画

基本戦略に小分野（戦略分野）を設定し、戦略分野ごとに目標指標と取組方向を示しています。

基本戦略の取組みの方針と、戦略分野の目標指標と取組方向に基づき、具体的な施策を推進するプロジェクトを設定するとともに、その進捗状況を評価・検証するため、プロジェクトごとに重要業績評価指標（KPI）を設定しています。

5つの基本戦略のうち、基本戦略4「やまがた森林ノミクス」の加速化における戦略分野別の目標指標・KPIについては、次頁の概要をご覧ください。

◆目標達成に向けて

県では、近年、人口減少や気候変

動などを、農林水産業を取り巻く環境がかつてないスピードで大きく変化する時代の中でも、担い手などの

様々な『人』の力と、スマート技術に代表される『技術』の力を結集することによって、迫りくる困難な局面を開き、目指す姿の実現に向けて取り組んで参ります。

◆戦略の構成

戦略の共通目標の達成に向け、各々の関連分野の目指す方向性がわかるように、分野ごとに基本戦略を設定しています。

〔県森林ノミクス推進課〕

第5次農林水産業元気創造戦略の概要

令和7年3月策定

1 位置付け

「第4次山形県総合発展計画」（令和2年3月策定）に掲げた農林水産分野に関する政策展開の考え方や施策の方向を踏まえ、今後10年間程度を見据えつつ、直近の4年間で取り組む具体的なプロジェクトを掲げた実行計画として示すもの。

2 基本的な考え方

農林水産業をめぐる状況

- 農林漁業者の高齢化・後継者不足が進行し、今後、大幅な担い手の減少が見込まれる。
- 農山漁村の人口減少が顕著であり、集落機能の脆弱化が懸念されている。
- 温暖化の進行により、高温等による農林水産物への被害が毎年のように発生するとともに、自然災害が頻発・激甚化している。

対応方針

- 上記のような環境変化を乗り越えるため、生産基盤や地域資源を基本としつつ、担い手経営体を中心とした様々な人材の力と、スマート技術等の新たな技術の力を、生産・流通・販売の各分野で最大限に活用する。
- 「人」と「技術」の力を活かし、農林漁業者の収益性向上と、農山漁村の活性化を進める。

目指す姿と共通目標

- 食料供給県としての本県の役割を維持するとともに、農林漁業者が豊かさを実感し、誇り・夢・希望が持てる農林水産業を実現していくため、右記の共通目標を設定する。

3 構成

共通目標

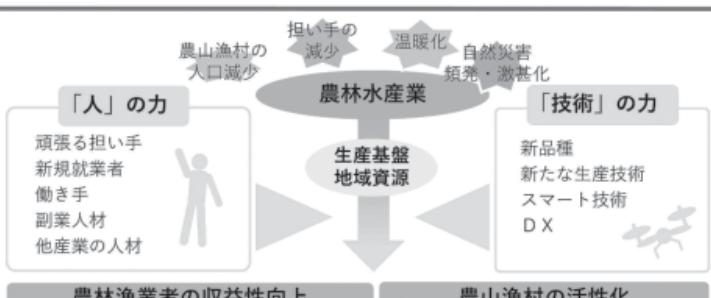
- 基本戦略(5)
- 戦略分野(16)
- 目標指標(20)
- プロジェクト(50)
- KPI(100)

基本戦略

- 1 人口減少に対応した生産性の高い農業経営と持続可能な農村の形成
- 2 気候変動に対応した環境と調和のとれた農業生産への転換
- 3 稼げる農業の実現に向けた戦略的な生産・流通・販売と産業連携
- 4 「やまがた森林ノミクス」の加速化
- 5 付加価値の高い持続可能な水産業の実現

- 共通目標の達成に向け、5つの基本戦略を設定し、その取組みの方針を示す。
- 基本戦略に複数の小分野（戦略分野）を設定し、戦略分野ごとに目標指標と取組方向を示す。
- 具体的な施策を推進するプロジェクトを設定し、その進捗管理のため重要業績評価指標（KPI）を設定する。

未来を拓く「人」と「技術」が躍動する、新時代の農林水産業の展開



<目指す姿>

- 環境の変化に対応できる持続可能な食料供給県やまがた
- 農林漁業者が豊かさを実感し、誇り・夢・希望が持てる農林水産業

【共通目標】

未来を拓く「人」と「技術」が躍動する、新時代の農林水産業の展開

【基本戦略4】

モリ 「やまがた森林ノミクス」の加速化

戦略分野10 持続可能な森林経営の推進

目標指標

木材生産量

R5(現状) 59.1万m³ ⇒ R10(目標) 70万m³

再造林率

R5(現状) 88% ⇒ R10(目標) 100%

PJ-39 林業を支える人材育成と事業体強化

林業事業体の労働環境の改善や経営力の向上の促進、東北農林専門職大学における人材育成など

PJ-40 森林施設の省力化・効率化

航空レーザ測量データの活用等のスマート林業の取組みの促進など

KPI

- 林業の新規就業者数
- 東北農林専門職大学の入学者数[再掲]
- 林業労働生産性
- 再造林面積

戦略分野11 県産木材の供給体制の強化と利活用の促進

目標指標

木材生産量[再掲]

R5(現状) 59.1万m³ ⇒ R10(目標) 70万m³

PJ-41 県産木材の加工流通体制強化と付加価値向上

需要に対応できるサプライチェーンの構築、木材の加工流通体制の強化、県産木製品の輸出促進など

PJ-42 県産木材利用促進

公共・民間施設の木造・木質化の推進、林工連携等による製品・技術開発の推進など

KPI

- JAS 製品等出荷量 (木材)
- 民間施設の木造化率

戦略分野12 森林資源を活用した魅力ある地域づくり

目標指標

きのこ類等の産出額

R4(現状) 37.5億円 ⇒ R10(目標) 38億円

PJ-43 特用林産物振興

生産者の規模に応じた支援、観光分野等と連携した消費拡大に向けた取組みの展開など

PJ-44 森林の付加価値向上と県民総参加意識醸成

森林サービス産業の創出等に向けた取組みへの支援、「やまがた森林ノミクス」の情報発信など

KPI

- 山菜・きのこ等の生産量
- 森林資源を活用した取組みへの支援件数

戦略分野13 頻発・激甚化する自然災害への備え

目標指標

治山対策実施箇所数 (4年間の累計) R2~5(現状) 92箇所 ⇒ R7~10(目標) 100箇所

PJ-45 災害等に強い治山対策推進

山地災害危険地区における重点的な治山施設の整備、海岸林の松くい虫防除対策の重点化など

KPI

- 個別施設計画に基づく治山施設等の長寿命化対策率

◆はじめに

山形県林工連携コンソーシアムは、林業、木材産業、工業、建築関係事業者及び大学・研究機関等が相互に連携し、森林資源を起点とした新技術や製品開発を推進することにより、新たな木材の需要を喚起し、雇用の創出を図ることを目的として、研修会や先進地視察等を実施しています。

◆令和7年度総会・研修会

7月24日に令和7年度総会と研修会を開催しました。総会では、事業計画、役員の改選等が承認されました。研修会では、静岡県立農林環境専門職大学生産環境経営学部教授の藤本清彦氏から「国産未活用広葉樹やスギ大径材の最新活用技術について」と題して御講演いただきました。現状、あまり活用されていない国産広葉樹のセンダン、ハンノキ、コナラ、ホオノキに関して、材質・物理特性や製材・切削加工特性、乾燥特性を教えていただきました。センダン、ハンノキ、ホオノキに関しては、切削加工や乾燥のしやすさはブナと大差はないとのことです。輸入広葉樹の調達が厳しい状況にある中、



研修会の様子

山形県林工連携コンソーシアムの取組み

国産広葉樹を使う絶好の機会であり、広葉樹加工ができる工場の整備や広葉樹加工に関する研究の継続が必要であるとのことでした。

また、利用促進が不可欠であるスギ大径材の活用技術についても御教授いただきました。1本の丸太から複数の材種をとる場合、芯去り平角の曲げ強度は芯持ち平角よりも高いこと、製材方法により効率的に複数の芯去り平角がとれること、また芯去り平角は減圧乾燥することにより乾燥時間を大幅に削減できるとのことでした。

今後も、最先端技術や実際に活用できる技術の研修等を通して、林工連携を推進していきます。

山形県森林管理推進協議会・林業事業体経営体質強化研修会を開催

◆はじめに

森林経営管理制度の情報共有を図るため、令和7年度の第1回山形県森林管理推進協議会を、オンライン形式にて7月7日に開催しました。

また、協議会に引き続き、森林經營管理制度の森林整備等を担う事業体の育成を図るため、林業事業体経営体質強化研修会も合わせて開催しました。

◆山形県森林管理推進協議会

今回の協議会には48の市町村・関係団体から57名が出席しました。

まず、各市町村の森林經營管理制度の昨年度の取組状況と今年度の計画について情報共有を行いました。これまでに26市町村が意向調査を実施しており、今年度で32市町村（94%）の実施が見込まれます。また、本制度による森林整備はこれまでに9市町村で実施され、今年度の計画と合わせると16市町村（47%）となる見込みとなっています。

次に、市町村の制度推進を支援する「山形県森林經營管理制度実行サポート事業」の受託者である公益財団法人やまがた森林と緑の推進機構から、令和6年度の取組事例として河北町、東根市、金山町、鮭川村の取組みを報告していただきました。

続いて、県の今年度の主な取組みについて説明しました。今年度も昨年度と同様の取組みを行う計画としており、本協議会や地域別の協議会の開催、市町村の森林經營管理制度の進捗状況に応じた効果的な個別支援、市町村や林業事業体等を対象とした研修会の開催、人材の育成などを行う予定としています。市町村を



オンライン形式による森林管理推進協議会

支援する地域林政アドバイザーの育成については、本県では令和2年度から認定研修を開催し、昨年度までに68名が認定されています。

また、令和4年度から実施している国・県・市町村が連携した航空レーザ測量の共同実施を、今年度は6市町村で計36千haの森林資源解析を行った計画です。この共同実施の事業期間は令和8年度までのため、未実施の市町村に対して来年度の参加検討を依頼しました。

最後に、森林環境譲与税の活用状況や留意事項などを説明しました。

譲与税は年々活用が進んでいるものの、活用率は全国平均に届いていないことから、積極的な活用と合わせて、活用方法や積立理由などの周知・広報を依頼しました。

◆林業事業体経営体質強化研修会

今回の研修会には55の市町村・関係機関・林業事業体から89名が出席し、来年4月から運用が開始される森林經營管理制度の新たな仕組みについて、林野庁森林整備部森林利用課森林集積推進室長の城風人氏に講義いただきました。

初めて、これまでの全国の森林經營管理制度の活用状況について説明がありました。制度開始5年間で

1.132万haの意向調査が実施されました。が、經營管理権配分計画による森林整備の実施面積は0.3万haに留まり、思うように制度利用が進んでいない状況の説明がありました。また、制度の主体である市町村から、実施体制が十分ではなく、事務負担の軽減を求める声もあり、今回の制度改正となつたことが説明されました。

次に、今回の改正の2つの柱となつたことの説明です。1. 集積・集約化を進めるための新たな仕組みの創設
2. 市町村の事務負担の軽減について説明がありました。

1については、市町村が林業經營体を含む地域の関係者と協議し、地域の森林の将来像を定める集約化構想を作成した上で、森林經營管理制度の集積と配分を一括した計画を立てることが可能となります（従来の仕組みも併存）。

2については、所有者不明森林等について、公告期間を短縮するなど手続要件が緩和されたことなどが説明されました。

詳細な運用は今後通知される予定であり、引き続き協議会等で情報共有を図つてまいります。

やまがた木育人材養成講座 【スタートアップ】を開催

◆はじめに

県では、県民の豊かなみどりを守り育む意識の醸成を図るため、「一人ひとりが森と共に生きていることや、木を活かす暮らしの大切さを改めて理解し、行動を起こすことができる人づくり」を目的として、すべての世代を対象に「やまがた木育」を進めています。

今回開催した「やまがた木育人材養成講座【スタートアップ】」は、新たに「やまがた木育」を指導できる人材を養成することを目的に、県内2会場で開催しました。今回の講座は導入編で、やまがた木育に興味がある方々を主な対象としました。

◆講座について

1 期日と場所

7月17日（木）村山総合支庁
7月28日（月）庄内総合支庁

2 参加者

森づくりボランティア団体、森の案内人、子育て支援施設や保育園関係者等 計25名

3 内容

① 座学・やまがた木育について、本講座の目的について

次に、山形県が日本一の面積を誇るブナをテーマに国土保全機能と水源かん養機能に着目しながら、山形県の森林文化や森林の有する多面的機能について説明しました。

◆おわりに

普段から森づくりボランティア団体や森林インストラクターとして、森林の中で活動されている方のご参加が多い講座となりました。

講座を通して、やまがた木育の考



集合写真(村山会場)



木育カフェの様子(庄内会場)

② やまがた木育プログラム
テーマ：ブナ（講話、木育カフェ）

座学の後は、実際にブナのしづくストラップづくりをしながら「木育カフェ」を体験していただきました。この木育カフェは、木の小物を作りながらリラックスした雰囲気で意見交換をする対話手法です。

やまがた木育に興味があるという共通項を持つ、様々な経験の方々にご参加いただき、班に分かれての作業では、それぞれの立場から意見が活発に交わされていました。

え方を普段の活動へ取り入れていただければ嬉しいです。

県では、やまがた木育を県民にく理解いただきながら展開できるよう、指導者の確保や技術向上と併せて、活動体制の整備を進めてまいります。



完成したストラップ

活動の様子は左記のInstagramで発信しています。
ぜひ、アカウントのフォローと、投稿への「いいね」をお願いします。



↑Instagram
はこちら



刈払機の刃の研ぎ方を学ぶ農林大生



伐倒方向の指導を受ける農林大生



安全を確保したドローン操縦練習



精密だが難しい TS 測量に四苦八苦

◆ 附属農林大学校 林業経営学科
 農林大学校林業経営学科では、森林・林業に関する高い専門性を支える幅広い知識・技術を備えるとともに、卒業後、林業の現場で必要となる実践的な技術を習得するため、

林業事業体や機械メーカーの技術者から直接アドバイスを受ける授業も積極的に取り入れて学生の技術力、コミュニケーション能力の向上につなげています。

◇ 機械メーカーによる実践指導
 6月には2年生を中心に、チエー

ンソーメーカーであるハスクバーナ・ゼノア(株)の技術者から、日常の点検・メンテナンスのポイントや伐木競技から学ぶ安全なチエーンソーの操作技術について、丁寧に教えていただきました。

◇ 地元林業事業体による実習

農林大学校では、最上地域の2つの森林組合に依頼をして、実際の林業現場での講義や森林管理実習を頻繁に行っています。学生にとっては、

専門職大学2年生9名は今、スマート森林業の将来の担い手となるため、職業専門科目の「測量学」や「森林情報学」を学んでいます。本学の特徴である理論と実践を両輪で学ぶ例として、地籍情報の無い林地での「森林境界明確化」の実用事例等を

後期には「先端森林業技術論」でスマート森林業についてさらに知識と経験を深めていく予定です。

論とスキルを直接学ぶことができ、実践的な学びと実務経験になっています。7月には1年生6名が、金山町森林組合の職員から指導をいただき、森林保育として必須である下刈の作業技術を習得しました。

〔附属農林大学校〕

◆ 専門職大学 森林業経営学科

なGNSSやリモートセンシングによる測量の原理と実作業を「測量学」で学びました。トータルステーション(TS)を使って1日以上かけて半分しか測量できなかった地点が、GNSS測量では30分ほどで屋外作業が完了し、スマート森林業の省力化の効果を実感しました。またドローン飛行に係る航空法や小型無人機等飛行禁止法などの操縦練習を、安全を確保した環境下で実施しました。

スマート森林業についてさらに知識と経験を深めていく予定です。

〔東北農林専門職大学〕



地域での森林環境教育活動

次代を担うべき子ども達には、自分で課題を見つけ自ら学ぶなど、自ら考える力や心身のたくましさが期待されています。

森林を学校にして、自らの行動を体験として学んでいくことにより、子ども達の「生きる力」が育まれていくことが期待されます。さらに、体験に裏打ちされる」とにより、知識の広がりと深まりが生まれ、その経験が日常の生活態度に実感を伴って組み込まれていくことが期待されます。

朝日庄内森林生態系保全センターは、子供たちに森での体験をしてもらうため、保育園や小学校で森林環境教育を行っています。

◎西荒瀬保育園での活動

酒田市にある「西荒瀬保育園」では年長組の園児を対象とした「みどりの保育園」に協力しています。

当センターでは、今年度1回目の「きのこの駒打ち体験」、2回目の「クロマツ探検隊」を実施しました。

11月には、「マツぼっくりのツリーツくり」を予定しています。

きのこの駒打ち体験では、きのこに



きのこの駒打ちをする園児

ついてのお話の後、電動ドリルにによる穴あけ、そして園児自ら木鎧を用いて駒打ちをしました。駒打ちされた木は、「遊々の森」に指定された「しんちゃんの森」に運ばれました。そこには園児達の先輩が駒打ちした木にシイタケができるおり、食も含めた森を体験してもらっています。

◎鶴岡市立あさひ小学校

あさひ小学校は地元の豊かな自然や文化に親しんでもらうことなどを目的とした「大鳥自然教室」を開催しており、当センターも全面的に協力しています。

この自然教室でははじめに座学の「事前学習」を行います。そして、朝日自然塾連絡協議会や地元の協力を得て、出羽の古道「六十里越街道」のトレッキングを行います。そして翌日は「森林保全活動」としてスギ人工林の除伐を行っています。

事前学習では、人と森林との関わり、森林の働き、間伐、危険生物について熱心に学習しました。

六十里越街道トレッキングでは、地元の方から、街道にまつわる史跡

どのイベントにおいても園児たちは目を輝かせ、自ら物事に取り組み、すべてが新たな発見に満ち溢れていました。園児ならではの感性の豊かさを感じる一方で、幼少時の自然体験の意義を感じさせられました。

これらの活動は「国有林野の管理経営に関する基本計画の実施状況」(三・一白書)でも紹介されています。
https://www.rinya.maff.go.jp/j/kokuyu_rinya/jissi/attach/pdf/jyokyo_2023-25.pdf



六十里越街道のブナ林を進む

翌日の森林保全活動では、スギ人工林の除伐でしたが、自分たちで創意工夫して伐採し、それを輪切りにして、コーススターや名札等に加工しました。刃物の扱いも含め、日々の生활では味わえない体験をされたと思います。

これからも森林での体験を通じて、子ども達の「生きる力」を育む機会となればと願っています。

〔朝日庄内森林生態系保全センター〕

や自然の解説を聞きながら、田麦俣から湯殿山大鳥居まで概ね7キロの長い道のりを踏破しました。

慣れない山道でしたが、グループごとに互いに楽しみ、励まし、助け合いながら歩みを進める姿がたくさんありました。印象に残りました。

月山弓張平 サマージャンボリー を開催しました

◆期 日 令和7年8月6日（水）
◆会 場 西川町 弓張平公園、
県立自然博物園

◆主 催 第16回山形県緑の少年団交流研修大会実行委員会（山形県、村山地域林業振興協議会、最上地域林業振興協議会、置賜林業推進協議会、庄内地方林業振興協議会、公益財団法人やまがた森林と緑の推進機構、山形県緑の少年団連盟）

◆共 催 弓張平公園管理運営企業体
◆参加者 県内の少年団員83名

◆実施状況

毎年夏の恒例行事となつてている山形県緑の少年団交流研修大会（月山弓張平サマージャンボリー）は、今年も西川町志津の弓張平公園を主な会場として開催し、県内8市町村の11の少年団から団員83名の参加がありました。当日は未明からの強い雨が降り止まなかつたため、一部の活動を雨天時のプログラムに変更しましたが、子供たちのあまりの熱気には雨雲はどこかに吹き飛んで行き、活動が始まる頃には小雨に変わっていました。

毎年夏の恒例行事となつてている山形県緑の少年団交流研修大会（月山弓張平サマージャンボリー）は、今年も西川町志津の弓張平公園を主な会場として開催し、県内8市町村の11の少年団から団員83名の参加がありました。当日は未明からの強い雨が降り止まなかつたため、一部の活動を雨天時のプログラムに変更しましたが、子供たちのあまりの熱気には雨雲はどこかに吹き飛んで行き、活動が始まる頃には小雨に変わっていました。



活動の前に10班に分かれてアイスブレイクを行い、初めて出会う同じ班の仲間と打ち解けた後、共通プログラムである「森林散策」と、「ネイチャーゲーム」、「魚のつかみ取り」の2つのプログラムから選んで交互に活動を行いました。

全員の共通プログラムである「森林散策」は、県立自然博物園の森林をフィールドに、同園のインターープリターの案内で散策しました。7月の記録的な高温少雨の影響により、

ブレイクを行い、初めて出会う同じ班の仲間と打ち解けた後、共通プログラムである「森林散策」と、「ネイチャーゲーム」、「魚のつかみ取り」の2つのプログラムから選んで交互に活動を行いました。

「ネイチャーゲーム」は、雨のために中止となつたツリークライミングと昆虫調査に参加する予定だつた子供たちを対象に、山形村山ネイチャーゲームの会の講師に指導していただきました。自然の風景を自分の感性で切り取り、タイトルを付ける「森の美術館」などの様々なゲームを通して、自然の不思議や仕組みなどを楽しく学ぶことができました。

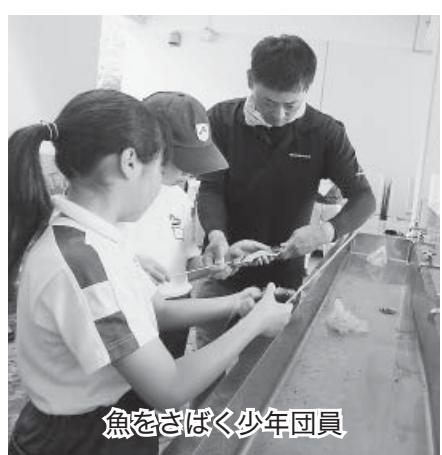


「昆虫調査」も雨のため中止しましたが、事前に設置していたトラップにはカブトムシやクワガタなど

がたくさん入つており、虫好きの団員からお土産として持ち帰つてもらいました。また、講師に持参していただいた珍しい昆虫の見事な標本も見ることができました。

今回は天候判断の難しさを痛感した大会となりましたが、参加した子供たちみんな元気に活動することができ、月山の大自然を満喫してもらえたと思います。

最後になりましたが、大会の運営に際しご協力いただいた関係者の皆様に対し、厚くお礼申し上げます。



えて、弓張平公園管理運営企業体のスタッフから手伝つてもらひながらニジマスをさばき、塩焼きにしておいしくいただきました。

緑の少年団活動促進事業を活用した
二井宿みどりの少年団の活動報告

緑の少年団活動を一層推進するため、全国緑の少年団連盟では「緑の少年団活動促進事業」を実施し、学習活動の充実、地域等との連携強化等に取り組む少年団に対して助成を行っています。この事業は、地域単位で活動している緑の少年団を主な対象として、学習活動の充実・促進、指導体制の整備、育成会の整備や基盤強化に対して助成することにより、地域の一層の協力・支援を得て、緑の少年団活動の目的が達成できるよう支援するものです。

この度、この助成を受けて高畠町の「二井宿みどりの少年団」が活動を行いましたので、その概要を報告いたします。

二井宿みどりの少年団には、高畠町立二井宿小学校の1年生から6年生までの児童17名（令和7年6月現在）が在籍しており、地域の子供会育成会や二井宿愛林公益会、わくわくプロジェクトという地域のボランティア団体からの支援を受けながら様々な活動を行っています。

同校の裏山で採取した笹の葉を使った笹巻づくりでは、笹の葉が持つている殺菌効果により保存食とし



キャンプでの夕飯作りの様子

キャンプ場では、普段は何気なく使っている水や電気などに制限がありましたが、手作りした笹巻をおいしくいただきました。



笹巻に使う笹の採取

はじめに団子飾りの由来を地域の方から説明してもらい、地域の里山で採取したミズキの枝に紅白の団子を刺し、公民館の廊下に飾り付けました。最後はみんなで餅を食べ、楽しく地域に伝わる伝統文化に触ることができました。



完成した団子飾りと少年団員たち

緑の募金にご協力いただいた企業・団体のみなさま
(R7.6.1～R7.7.31)

(やまがた森林と緑の推進機構取扱い分)

(株)青葉堂印刷、アシード(株)、コカ・コーラボトラーズジャパン(株)、(株)さくらんぼホケン、森林研究・整備機構 森林整備センター山形水源林整備事務所、ダイドードリンコ(株)、(有)滝口ベンディング、日本郵便(株)山形南郵便局、山形河川国道事務所、山形県森林土木建設業協会、山形県農業協同組合中央会、山形県農業総合研究センター園芸農業研究所、山形地方検察庁、(株)ヤマザワ
(敬称略、五十音順)

ご協力ありがとうございました

くりや家族間の交流の場にもなったほか、水や火などが自分たちの暮らしに欠かせないことと、それらをもたらす健やかな自然の大切さを実感することができたようです。

さらに、団子飾りの学習会では、地域単位で活動している緑の少年団も校単位で活動している緑の少年団も対象にしていますので、興味のある緑の少年団がありましたらお気軽に問い合わせください。

(公財)やまがた森林と緑の推進機構

林業担い手確保の取組み やまがた移住・交流フェア（東京交通会館）に参加

◆やまがた移住・交流フェアとは

やまがた移住・交流フェアは、首都圏から本県への移住・定住の促進と、関係人口の増加を目的として、県内市町村及び関係団体等が一堂に会して、移住と仕事の一体的な相談を行う最大の移住イベントです。

令和5年度までは秋に開催されていましたが、令和6年度からは年間のキックオフイベントと位置付けて、6月の開催となりました。

会場では、県内4地区ごとに市町村のブースが設けられ、移住に関する情報提供や相談を行うとともに、移住後の仕事や生活関連の相談を行う業界団体や生活関連団体のブースも設けられ、移住に関する相談対応や情報発信が総合的・一体的に行なわれることから、山形県に移住を検討している来場者には、最適なイベントです。

◆フェアの様子

本年度は6月14日（土）に、有楽町の東京交通会館で開催されました。



花笠踊りのワークショップ

当日は、264組425名の方が来場されました。会場では移住ということもあり、子供を連れた家族連れで来場される方が多く見られました。また、山形県を体験していただくため、花笠踊りや絵ろうそく、お鷹ぽっぽの絵付けのワークショップも行われ会場が賑やかな雰囲気に包まれました。

当センターも、新たな林業の担い

当日は、264組425名の方が来場され

ました。会場では移住ということもあり、子供を連れた家族連れで来場される方が多く見られました。また、50代の男性は、「子供も独立したので、自分一人で山形県への移住を考えている。」とのことで、林業に興味はあるが50代でも就業は可能かとのご質問でした。

個人差はあるものの、50代からの就業はかなり大変だが、林業は木を伐るばかりでなく、様々な業務があるので、是非、検討いただきたい旨を説明しました。

30代の男性は、2拠点生活を検討しており、その際、林業に興味があるが、何も知らないので教えてほしいとの相談でした。

当センターで作成している「林業事業体ガイドブック」で、林業の現況や林業の仕事について紹介しながら、刈払い機やチェーンソーの資格を取得し、実習で林業を体験できる「林業就業支援講習」や、働きながら技術を学ぶ「緑の雇用」の制度等を説明し、全く林業に関して経験や資格がなくても、サポートする制度

手の確保を目的に、本県で移住後の就職先として、森林・林業への就業に関心を持つ方を対象に仕事の説明・相談を行いました。

◆相談内容



相談する様子

◆むすびに

首都圏でのイベント等様々な機会を活用して、林業に興味を持つている方々に、少しでも当県の林業の情報を発信し、林業就業支援講習や1日体験のマッチング支援事業、無料職業紹介事業とも連携し、山形県の林業就業者を確保していきたいと考えております。

（県林業労働力確保支援センター）

ワラビのカバークロップによる下刈り 省力化に関する研修を実施しました

【はじめに】

山形県における民有林の人工林面積のうち11歳級以上が約7割を占め、その豊富な資源を有効に循環利用するためには、計画的な主伐と適切な再造林の実施が重要です。このよう再造林の実施が重要です。このような中、確実な再造林を促進するため、保育作業の省力化と経費削減が求められています。

そのため、森林研究研修センターでは、ワラビカバークロップによる下刈り省力化の技術を開発し、下刈り作業の省力化に取り組んでいます。

この度、県の森林技術職員等を対象に、ワラビカバークロップによる下刈り省力化の技術の普及に必要な基礎知識を習得するため、「令和7年度山形県森林技術職員等技術研修（造林）」を実施しました。

【ワラビのカバークロップ効果】

森林研究研修センターでは、スギ植林地にワラビを混植することで、苗木の育成を阻害する他の競合植物の発生を抑制し、下刈りを省略する技術を開発しました。

さらに、ワラビの特用林産物としての価値を生かすことで、再造林経費及びワラビ栽培経費以上の収益が得られる可能性があります。

試験では、4年目以降は、スギがワラビの高さを超えるため、下刈りは不要となり、最も少ない場合で1回、多い場合でも3回で済みます。下刈りを2回以内に抑えることができれば、現状（下刈りを6回とした場合）よりも経費を削減することができます。

【研修概要】

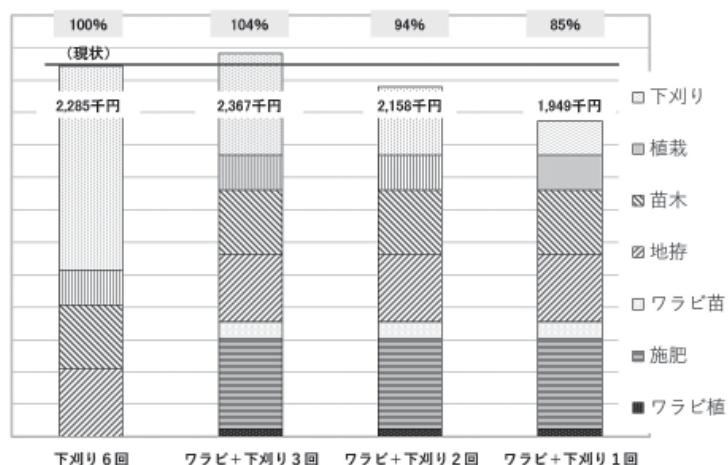
令和7年5月28日（水）に森林研究研修センター試験実習林で実施し、市町村、県職員計12名が参加しました。

当センターの中村森林資源利用部長から、ワラビのカバークロップによる下刈り省力化について講義を受けた後、西川町沼山でワラビ生産を

している沼山ワラビ愛好会のみなさんから収穫及び加工方法を学びました。実習では、実際にワラビを収穫し、選別や出荷作業、塩蔵などを行いました。



収穫状況



ワラビ導入時の再造林経費の試算 (ha当たり)



【おわりに】

センターでは、引き続き、森林技術者や林業士、市町村や県の職員を対象とした各種技術研修を実施していくことで、皆様の参加をお待ちしております。

【森林研究研修センター】



選別状況

村山地域における令和7年度森林計画業務研修会

森林を無秩序な伐採・開発から守り、次世代へ繋いでいくために森林法で定められている森林計画制度に対する理解を深め、当制度を適正に運用していくことを目的に、管内の市町担当職員及び林業事業体職員を対象に研修会を実施しました。

研修会は6月24日と7月1日の二日間に分けて開催し、一日目は「市町村森林整備計画」と「伐採及び伐採後の造林の届出制度」、二日目は



演習問題に取組む研修生

「森林経営計画制度」と「林地台帳・森林の土地の所有者届出制度」をテーマに研修を行いました。

「伐採及び伐採後の造林の届出制度」の研修は、林野庁で作成している「伐採造林届出書作成の手引き」等を活用しながら行い、最後に研修生が届出の審査者になりきり、提出された伐採造林届に不備がないか確認・指摘する演習も行いました。

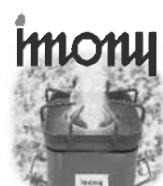
受講後アンケートを行ったところ、研修生から「演習問題があり自分で考える機会があつたのでとても勉強になった」「森林経営計画の林班計画・区域計画についてあいまいな部分があつたため詳しく教えていただき大変参考になった」「林地台帳の意義と内容についてもより詳しく分かつたので勉強になった」という感想があり、研修生から好評を得ることができました。

森林計画制度は多岐にわたり、各制度が複雑に絡み合っているため、非常に難しい分野となつておりますが、今回の研修が研修生の今後の業務に活かされることを期待します。

〔村山総合支庁森林整備課〕

PELLET
Watarai

地域の暮らしをしっかりとバックアップ!!
総合電設業、木質燃料製造販売、一般廃棄物・産業廃棄物リサイクル事業



詳しくは
こちらから



代表取締役
丹治 真彦

本社：山形県鶴岡市下山添字一里塚36
0235-57-2454(代) FAX 0235-57-2345
田代工場：鶴岡市田代字広瀬16-2
0235-57-4778(代) FAX 0235-57-4786
庄内工場：東田川郡庄内町狩川字砂山外6-4

—全国食用きのこ種菌協会会員—
〒999-7757
山形県東田川郡庄内町払田字村東17-2



株式会社
河村式種菌研究所

お問い合わせは：電 話 0234(42)1122(代)
FAX 0234(42)1124

東北みちのくの珍味
**トンビマイタケ菌床
まいたけ帽木** 庭先でも栽培できます。



きのこ種菌 しいたけ・なめこ・ひらたけ・むきたけ・かのか・くりたけ他

最上地域 ICT技術活用 研修会の開催

◆はじめに（目的）

最上総合支庁では、スマート林業の推進に取り組んでいます。管内市町村においては、航空レーザ測量・解析や森林クラウドシステムの導入を行っているところですが、人的資源が限定的な市町村においては、さらにICT技術等を活用した業務の効率化が求められるところです。そこで、主に市町村の業務効率化につなげるため本研修会を開催しました。

◆研修会内容

・開催日	令和7年7月17日
・場所	新庄市陣峰市民の森、 最上総合支庁
・参加者	林業事業体・市町村職員 県林務職員 16名
・講師	株式会社鳥海フオレスト 森林施業プランナー 塩谷 政人 氏



参加者にはICT機器が業務効率化につながることを実感してもらえたようで、今後の業務の参考になつたようです。

◆おわりに

今後も、新たなICT技術を紹介するなど、こうした研修会等を通じて、林業事業体だけでなく、市町村のスマート林業の推進にもつなげてまいります。

測結果がどのようにも

のだったか

を確認しま

した。他にOWLの活用事例や今後実施予定のJ-クレジット制度の話をしていただき、参加者からはたくさん質問があり、関心の高さがうかがえました。

1タの解析は、計測データを受けました。講義で移して講義を行い、計測結果がどのようにも



〔最上総合支庁森林整備課〕

“美しい森林の風景を守るために” 森林経営管理をサポートします

- 市町村の森林・林業行政の体制支援
- 資源量調査
- 森林GIS等、システム整備
- 森林経営計画作成促進の支援
- 路網整備の助言・指導
- 関係団体とのマッチング
- 森林境界の明確化
- 森林情報の収集及び整備
- 森林サイクルのマネジメント



一般社団法人 **山形森林調査協会**

〒991-0003 山形県寒河江市大字西根字長面153番地の1
TEL.0237-85-8233 FAX.0237-85-8233
E-mail : yfi@kfa.biglobe.ne.jp

森林とのかけ橋をめざす 総合アドバイザー

(一財) 日本森林林業振興会 秋田支部 Japan Forest Foundation AKITA

企業活動を展開しつつ、国から承認された国民参加の森林づくり等活動を支援する法人です

秋田支部 支部長 難波 真悟

〒990-0001 秋田市中通5-9-49
TEL 018(832)4040 Fax 018(835)6837

山形出張所 所長 佐藤 宏一

〒990-2473 山形市松栄1-5-41
TEL 023(647)8450 Fax 023(674)0109

災害対応支援研修の開催

◆はじめに

近年、令和6年7月の豪雨をはじめ、これまでに経験したことがない大雨の発生が増え、災害は激甚化と頻発化の傾向にあります。

県及び市町村の林務担当課は、梅雨時期や台風による大雨の際は、山林における災害の発生状況を把握し、適切な対応を行うこととなります。

中でも、山地災害が発生した場合には、住民の安全確保や被害拡大防止措置、災害復旧対策等を実施する必要となることから、特に迅速な初動対応が求められます。

県では、大規模な災害発生時は、担当を問わず全職員で初動対応を行う必要がありますが、治山林道担当の経験が浅い職員が多く、実務に離れて久しい職員が多く、実務に不安が残る状況となっていました。

そこで、梅雨入りし、降水量が増加する時期に備え、置賜総合支庁森林整備課職員をはじめとした、置賜管内林務担当職員を対象に災害対応支援研修を開催しました。

◆研修の概要

研修は災害発生時の初動対応のうち、治山林道担当業務の理解度によらず実務の支援が可能な内容に絞り、「災害初動対応の概要」と「森林クラウドシステム操作研修」、「ドローン操縦研修」の3つで構成しました。

6月10日（火）、6月20日（金）、7月1日（火）の3日間にわたり開催したところ、延べ24名の参加がありました。

◆災害初動対応の概要

令和7年度に改正された「山地災害等対応マニュアル」により、災害発生時の役割分担や現地調査の班分け等の初動体制と初動対応で作成する資料を確認しました。

初動対応で作成する資料には、災害発生箇所の位置図や森林の情報、被災状況の全体像が把握できる写真が含まれます。これらの資料は森林クラウドシステムの活用とドローン撮影により作成することができるため、基本的な操作と手順を学ぶことで経験を問わず初動対応の支援が可能であることを説明しました。



ドローンの飛行前準備

◆ドローン操縦研修

災害発生時の初動対応におけるドローンの利点としては、迅速に被害概況が把握できることと、危険箇所に立ち入ることなく、職員の安全が確保できることなどが挙げられます。

◆おわりに

参加者からは、「実務に活かせそうだ」との声があり、災害初動対応の体制強化を図ることができました。引き続き業務の中で森林クラウドシステムやドローンを積極的に活用し、災害の発生に備えてまいります。

（置賜総合支庁森林整備課）



簡易な高さの確認方法

～メンマ作りで竹林整備～ タケノコ活用研修会を開催しました

◆荒廃竹林への対策

近年、荒廃竹林の増加が問題となっていますが、県の竹林面積の9割以上を占める庄内地方においても例外ではなく、整備されていない竹藪の増加や造林地、畠地等への竹の侵入が見られています。その一方で、タケノコは県内での需要が高く、最近ではタケノコをメンマに加工し、地元の飲食店に販売する業者が出てきています。

そこで、庄内のモウソウチクをメンマに加工する方法を学ぶことで、今まで放置されていたタケノコを活用してもらうとともに、竹林の適正な管理へとつなげていくことを目的に研修会を開催することとしました。

◆研修会の開催

5月24日に鶴岡市三瀬のひやくねん森でタケノコ活用研修会が開催され、県内の林業グループ会員等16名が参加しました。研修では、指導林業士の加藤章氏を講師として招き、朝採りした約2メートルのタケノコを材料にメンマづくりを行いました。また、竹やタケノコをとりまく



メンマ加工用のタケノコ

近年の状況や統計資料紹介も行い、竹林整備、タケノコ生産に関する理解を深めてもらいました。

◆今後に向けて

今回の研修では、林業グループを対象として行いましたが、今後は、一般の方や食品の加工に携わる方を対象に継続して普及を行い、人の入れ替わりが行わされました。地元住民会や漁業者会、加茂水産高校の生徒、緑の少年団ら計74名で活動を行いました。心配していた天気にも恵まれ、雨に降られることなく活動ができました。

◇油戸魚の森

油戸魚の森は、油戸漁港が見渡せる海岸沿いの丘陵地にあり、平成9年度より3年間、山形県の魚の森づくりモデル事業の補助を受け造成されました。約1.6ヘクタールの魚の森に、これまでクロマツやカシワなど約3200本の苗木を植樹してきました。森に降った雨は木の幹を伝つて地中にしみ込み、川を流れて海に注ぎます。魚の森づくり活動は、森・川・



研修会の様子

魚の森へようこそ よぐ来たの鶴岡市油戸

海のつながりを大切にした森づくり活動です。

◇当日の活動

当日は、鶴岡市長の挨拶の後、庄内総合支庁による森づくりリレー旗の伝達が行われ、鶴岡市長から加茂水産高校の代表生徒にリレー旗が伝達されました。作業は下刈りと植栽の計4班に分かれて行いました。作業場へは急な斜面を登つて移動し、足場の悪い中での作業となりましたが、皆様にご協力いただきました。植栽班は、カシワ18本、アキ



計20本を植栽しました。作業終了後、海岸に移動し、鶴岡市三瀬の栽培

漁業センタ－で生育されたヒラメの稚魚1500尾



を「大きくなつてね」という願いを込め放流しました。

◇おわりに

ご協力いただきました皆様ありがとうございました。今後も森と海をつなぐ活動を継続していきたいと思います。（鶴岡市農山漁村振興課）

特集

高性能林業機械 ZOUZAI ウオッチャヤー

「コマツ山形株式会社



林業分野機種別マップ

高性能林業機械の性能を最大限に活かす、ICTなどを活用した生産管理システム「ZOUZAI ウオッチャヤー」について、コマツ山形株式会社に紹介していただきます。

◆「コマツの林業機械事業への取組み

コマツは林業機械事業を建設機械、鉱山機械に次ぐ第三の柱として位置づけ、事業の拡大に注力しています。世界各地の需要やニーズに応えるため、さまざまな工法に対応できる本体やアタッチメント（ヘッド）を取り揃えています。

北欧では早くから機械化に取り組み、生産効率を高めるとともに、安全性も向上させてきました（労働災害の大幅な減少）。生産量を管理するシステムにも早くから取り組み、川上、川中、川下が同じ生産データを活用するようにソリューションの導入を進めました。コマツは、その北欧（スウェーデン）のPartek（ブランドはValmet）を2004年に買収し、Komatsu Forestを設立し本格的に林業ビジネスへ参入しました。

Komatsu ForestはCTL（短幹集材）工法向けのタイヤ式のハーベスターやフォワーダー、ハーベスター・ヘッドなどの商品（本体とアタッチメント（ヘッド））をフルラインで品揃えし、世界のCTL需要にお応えしています。

北米では主流のFTL（全幹集材）需要にお応えするため、履帶式フエルバーンチャヤーやフェーリングヘッドなどを取りそろえています。国内ではコマツの総合力を活かし、作業道の整備に始まり、伐倒、玉切り、木質バイオマスなど建機ベースの林業仕様車であらゆる現場に対応

しています。「山の恵みと人をつなぐ、誇りある仕事を快適に。」をモットーに掲げ、林業分野に取り組んでいます。

◆ICTなどを活用した生産管理システム

国内では林野庁が進めている「林業イノベーション現場実装推進プログラム」の中で「経験から、ICTによる生産管理へ」を掲げ、ICTなどを活用したスマート林業を推進しています。

コマツはモノ（商品）に続いて生産管理にICTを活用したコト（ソリューション）にも取り組んでいます。

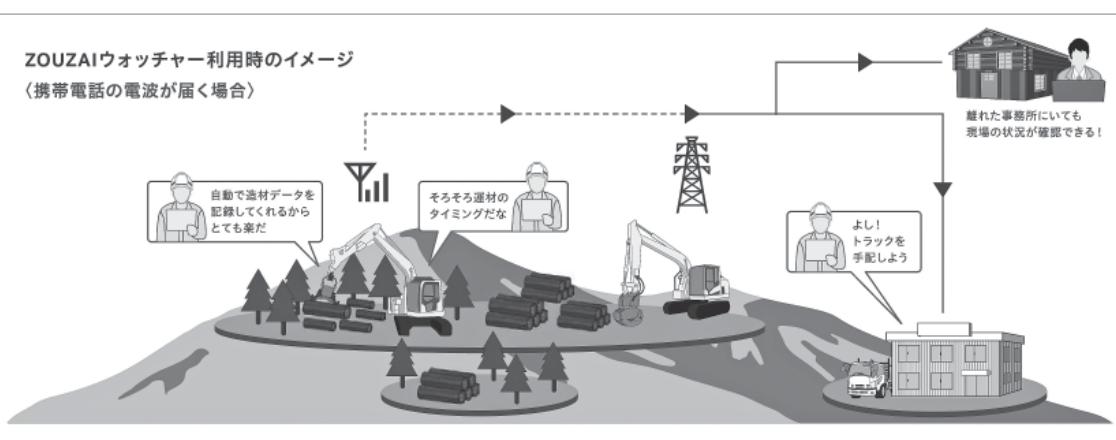
◆ZOUZAI ウオッチャヤーを市場導入

コマツは2022年にICTハーベスターC93を搭載したPC138US-11型C93ハーベスター仕様を発売。ICTハーベスターでは造材量などのデータを取得しています。そのデータを国内の要望に合った表示形式で見える化し、管理が行えるZOUZAI ウオッチャヤーを、2023年9月に市場導入しました。

ZOUZAI ウオッチャヤーは、次のメリットがあります。

- 1 ハーベスターへヘッドが取得したデータをアプリで見える化し、事務所にいながら現場の造材量を確認できます。
- 2 造材した丸太の量と位置を事務所で確認できるので、運材の手配が事務所で隨時行えます。

3 日々の造材量や位置情報のデータがクラウドに保存されるので、現場に行かなくても施業の状況や日々の進捗状況を、事務所でいつでも確認できます。



◆造材データの通信

携帯電話の電波が届く地域においては、おおよそ60分ごとにデータを送信し、アプリで処理したデータを事務所で確認できます。

携帯電波が届かない地域では、ス

マートフォン(Android端末)を利用して、造材データ転送端末(Care Qubel5)から無線LANでデータを転送し、電波の届く地域からデータをアップロードし、事務所でデータを見ることができます。

◆造材データを見る化

見ることができる造材データは次の通りです。

1 造材データは、丸太1本毎に造材時刻、どのハーベスターを使用して造材したか、樹種、エリア名・サブエリア名、造材した幹数、位置情報、幹に対する玉数、材のグレード、末口径、材長、材積が記録されています(①)。

2 ハーベスターで計測されている実測値を基に、総材積計算と、販売時に使用する材径・材長で材積計算(末口二乗法)を行い集計することができます(②)。

3 必要項目だけ表示させ、見やすくカスタマイズすることができます(③)。また、出荷しない端材を省いて集計することができます(④)。

4 造材データは、CSV形式でダウンロードし、お持ちの表計算ソフトで自由に解析することができます(④)。

ZOUZAIウォッチャー v1.1																					
造材データ		機械名		オペレーター名		ハーベスター名		樹種		現場/エリア名		幹No.	緯度	経度	本数	材直径	材長さ	材種			
登録日時	機械名	オペレーター名	ハーベスター名	機械名	樹種名	エリヤ名	サブエリヤ名	グレード	丸太	緯度	経度	丸太径(mm)	材長(m)	材積(m³)	材積(m³)	材積(m³)	材種				
2022/12/15 12:22	188016430	造材太郎	hase	ヒノキ	-	石川県白山	東海地区	2002	39.3933	136.4208	1	43	43	210	0.0035	0.0033	40	40	230	0.003	0.003
2022/12/15 14:55	188016430	造材太郎	hase	スギ	コマツ	石川県白山	東海地区	1252	39.78954	136.84935	1	411	411	400	0.0155	0.0155	400	400	400	0.040	0.040
2022/09/20 14:55	188016430	造材太郎	hase	スギ	コマツ	石川県白山	東海地区	1262	39.78954	136.84935	2	240	240	412	0.0255	0.0255	240	340	400	0.042	0.042
2022/09/20 14:55	188016430	造材太郎	hase	スギ	コマツ	石川県白山	東海地区	1262	39.78954	136.84935	3	227	227	413	0.0268	0.0268	220	330	400	0.044	0.044
2022/09/20 14:55	188016430	造材太郎	hase	スギ	コマツ	石川県白山	東海地区	1262	39.78954	136.84935	4	118	118	411	0.0028	0.0028	100	100	400	0.040	0.040
2022/09/20 14:55	188016430	造材太郎	hase	スギ	コマツ	石川県白山	東海地区	1263	39.78954	136.84935	1	238	238	412	0.0285	0.0285	240	400	0.039	0.230	0.230
2022/09/20 14:55	188016430	造材太郎	hase	スギ	コマツ	石川県白山	東海地区	1263	39.78954	136.84935	2	184	184	411	0.0167	0.0167	180	180	400	0.130	0.130
2022/09/20 14:55	188016430	造材太郎	hase	スギ	コマツ	石川県白山	東海地区	1263	39.78954	136.84935	3	99	99	412	0.0074	0.0074	90	90	400	0.032	0.032
2022/09/20 14:55	188016430	造材太郎	hase	スギ	コマツ	石川県白山	東海地区	1263	39.78954	136.84935	4	68	68	414	0.0073	0.0073	60	60	380	0.035	0.035
2022/09/20 14:55	188016430	造材太郎	hase	スギ	コマツ	石川県白山	東海地区	1263	39.78954	136.84935	1	239	239	411	0.0185	0.0185	200	200	400	0.180	0.180
2022/09/20 14:55	188016430	造材太郎	hase	スギ	コマツ	石川県白山	東海地区	1263	39.78954	136.84935	2	172	172	411	0.0277	0.0277	160	160	400	0.132	0.132
2022/09/20 14:55	188016430	造材太郎	hase	スギ	コマツ	石川県白山	東海地区	1263	39.78954	136.84935	3	116	116	411	0.0276	0.0276	100	100	400	0.040	0.040
2022/09/20 14:55	188016430	造材太郎	hase	スギ	コマツ	石川県白山	東海地区	1263	39.78954	136.84935	4	72	72	411	0.0097	0.0097	70	70	380	0.009	0.009
2022/09/20 14:55	188016430	造材太郎	hase	スギ	コマツ	石川県白山	東海地区	1263	39.78954	136.84935	1	279	279	412	0.0351	0.0351	260	260	400	0.270	0.270
2022/09/20 14:55	188016430	造材太郎	hase	スギ	コマツ	石川県白山	東海地区	1263	39.78954	136.84935	2	216	216	412	0.0263	0.0263	200	400	0.160	0.160	0.160
2022/09/20 14:55	188016430	造材太郎	hase	スギ	コマツ	石川県白山	東海地区	1263	39.78954	136.84935	3	144	144	411	0.0165	0.0165	140	140	400	0.078	0.078
2022/09/20 14:55	188016430	造材太郎	hase	スギ	コマツ	石川県白山	東海地区	1263	39.78954	136.84935	4	93	93	382	0.0223	0.0223	90	90	380	0.019	0.019

◆造材マップ

1 造材データ一覧画面での検索条件を反映させた上で、エリア、サブエリア、造材日、オペレーターなどの情報を地図上に表示・集計させることもできます。

(①)。また、丸太についても表示・集計させることもできます。

集計させることもできます。

ます(①)。

ます(①

林野庁長官への施策提案活動について

◆はじめに

県森林協会（今井敏会長）は、森林整備の推進や林業・木材産業の振興に向け、6月20日、青山林野庁長官（当時）、清水林政部長に対して施策提案活動を行いました。県森林協会として、林野庁長官に施策提案する活動は今回で3回目になります。当日は、今井会長と副会長の安部雄祐県木材産業協同組合理事長、松田賢やまがた県産木材利用センター理事長のほか、齋藤潔県森林組合連合会代表理事専務らが林野庁長官を訪問し、施策提案書を手渡しました。

◆施策提案の状況

提案した内容は、以下の4項目です。

- 1 森林整備関連事業の推進
 - (1) 森林整備の推進
 - (2) 森林経営管理制度の推進
- 2 国産材の安定供給と利用拡大の推進
- 3 林業・木材産業に係る就業者の確保
- 4 防災・減災、国土強靭化に向けた支援の強化

具体的には、国産材の生産・利用をより一層拡大するため、建築物等

での木材利用の貢献度に応じた支援策の推進、林業に携わる人材の育成・確保を図るために、林業労働環境の改善などについて意見交換がなされました。



林野庁長官（左から3人目）への施策提案

“やまがた森林ノミクス”を推進します 山形県森林組合連合会

代表理事長 佐 藤 景一郎

〒990-2339 山形市成沢西四丁目9番32号
TEL 023-688-8100 FAX 023-688-8103

《県内13の森林組合とともに 山形の森林を守り 育て 有効活用してまいります》

山形地方森林組合 天童市森林組合 西村山地方森林組合 北村山森林組合 東根市森林組合
最上広域森林組合 金山町森林組合 米沢地方森林組合 西置賜ふるさと森林組合
小国町森林組合 出羽庄内森林組合 温海町森林組合 北庄内森林組合



木を未来へつなぎ 未来を木でつなぐ、

県産材JAS_{AD}・_{KD}製品自信あります。ご用命承ります。

阿部製材所

検索



株式会社

阿部製材所

本社(酒田)／北港工場／やまがた中央木材市場

JAS認証工場：合法木材等認定事業者：やまがたの木認定事業者